

2023年室内環境学会学術大会 大会長奨励賞  
大会技術賞 受賞の言葉

A-26 寝具のダニ汚染を基準値以下に抑制するために  
必要な掃除頻度

橋本一浩<sup>1)</sup>, 小田尚幸<sup>1)</sup>, 嘉山美里<sup>2)</sup>, 山崎史<sup>2)</sup>

1)(株)エフシージー総合研究所, 2)ダイソン(株)

このたびの大会長奨励賞の受賞、誠に光栄に存じます。

私達は10年近く、住宅のダニ汚染について調査をしてきました。ここ数年のデータをまとめ、「日本人は床はこまめに掃除するのに、何故か寝具を掃除する習慣がない」と気づき今回の発表をするに至りました。ダニとアレルギーの関係性は一般にも広く知られています。寝具の内部にはダニが多いという事も誰もが知っています。それなのに何故か寝具を掃除していない事実に私達は愕然としました。あと一步、啓発が足りないのだと思います。素晴らしい研究成果が多数あるのに、一般生活者にそれが上手く伝わっていないのが現状で、この情報伝達が我々研究者の今後の大きな課題と言えます。

今回の発表のハイライトを以下にまとめますので、読者の皆さま是非、要旨をご一読ください。

【発表のハイライト】

- ダニに汚染された寝具で乳児を寝かせた場合、生後3~4か月でダニ感作が成立すると言われる
- 床は多くの人が掃除機掛けするが、寝具はほとんどの人が掃除していないことが明らかとなった
- 毎日掃除している寝具（90例中4例のみ）はダニ汚染が基準値以下であった

筆頭発表者は自身が重度のダニアレルギー体質であることから、怨念に近い感情を持ってダニの調査に取り組んでいます。筆頭発表者自身の第一の専門はカビですが、究極の目標はカビではなく、寝具のダニを根絶やしにすることです。この目標達成に向け、今後も地道な活動を重ねていきたいと思っています。

本研究の実施に当たってご協力を頂きました調査モニターの皆様、また調査をサポート頂いた関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

……著者データとプロフィール……

橋本一浩

(はしもとかずひろ)

(株)エフシージー総合研究所  
主任研究員, 博士(学術)

小田尚幸

(おだひさゆき)

(株)エフシージー総合研究所  
研究員, 博士(生物資源科学)

嘉山美里

(かやまみさと)

ダイソン(株)  
Communications Manager

山崎史

(やまざきふみ)

ダイソン(株)  
Head of Communications